

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：34516

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23320057

研究課題名 (和文) 第三期役者評判記本文の出版と役者評判記総合情報書庫公開の研究

研究課題名 (英文) Publishing transcription of Kabuki critiques (Yakusha Hyobanki) and making its comprehensive digital archives.

研究代表者

水田 かや乃 (MIZUTA, KAYANO)

園田学園女子大学・近松研究所・教授

研究者番号：40209755

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 13,400,000 円

研究成果の概要 (和文) : 本研究は、江戸時代に歌舞伎興行の劇評として出版された役者評判記のうち、既に翻字出版された万治～明和期 (1658-1772年) までの『歌舞伎評判記集成』第一期・第二期に引き続き、第三期として、安永～享和期 (1773-1804年) の翻字本文を出版し、公開するための共同研究である。最終年度には本文データをほぼ完成し、出版に向けた準備を開始している。と同時に、そのデータを、総合情報書庫として閲覧、検索できるシステムを開発しつつあり、役者評判記総合情報書庫として国内外に公開できるよう、精度を上げている。

研究成果の概要 (英文) : First two parts of transcriptions of Yakusha Hyobanki from 1658 to 1772 have been published as “Kabuki Hyobanki Shusei”. We projected publishing transcription of the third part of Yakusha Hyobanki from 1773 to 1804, and have almost completed the transcription and started preparation to publish. Also, we have developed the system of comprehensive digital archives of Yakusha Hyobanki in order to open them to the public and are improving the accuracy of data.

研究分野：日本近世芸能研究

キーワード：役者評判記 劇評 歌舞伎 翻刻本文 安永天明寛政享和 専門語彙索引 デジタルアーカイブ 翻字本文

1. 研究開始当初の背景

役者評判記研究会では、江戸時代に歌舞伎興行の劇評として出版された役者評判記のうち、既に翻字出版された万治～明和期(1658-1772)までの『歌舞伎評判記集成』第一期・第二期に引き続き、第三期として、安永～享和期(1773-1804年)の翻字本文を出版公開するための共同研究を、1998年より行ってきた。その間、科学研究費基盤研究(C)「役者評判記本文の総合的利用による歌舞伎の基礎研究」(1999-2002 350万円)、科学研究費基盤研究(C)「第三期役者評判記の総合情報書庫構築研究」(2005-2008 334万円)を受けて、研究を進めている。2010年には、第三期役者評判記のデジタルデータによる基礎的本文が出揃い、その完成と情報書庫システムの開発が必要となったため、本研究科学研究費補助金を申請した。

2. 研究の目的

安永～享和期(1773-1804年)の役者評判記について、

(1)現代の研究水準・技術に応じた資料翻字方法により、『歌舞伎評判記集成』第三期として出版公開すること

(2)索引に当たるデジタル総合情報書庫を開発し、完成公開すること

を目的とする。

併せて、第一期・第二期役者評判記のデジタル総合情報書庫への統合も目指す。

3. 研究の方法

(1)＜基礎研究＞本文翻字とデジタル本文の作成

研究代表者水田が所属する園田学園女子大学近松研究所を拠点とする。役者評判記研究会会員(研究代表者・研究分担者・連携研究者・研究協力者)が、パーソナルコンピュータによって、底本所蔵機関での原本閲覧を経た校訂本文を完成し、解題素案を執筆する。役者評判記研究会事務局(研究代表者・研究分担者)が校訂本文と解題の統一を行い、連携研究者が役者評判記に現れる画像(役者紋・挿絵他)のデジタル化を進める。統一された本文には、漢字処理・文字処理の後に、組版のためのレイアウト指示を加え、完成原稿とする。

(2)＜IT活用研究＞役者評判記総合情報書庫研究支援システムの開発・実験・運用・索引作成

デジタル環境やサーバ管理の人材等について最適の環境を持ち、研究分担者赤間が所属する立命館大学アート・リサーチセンターを拠点とする。役者評判記のデジタル画像とデジタル本文を組み合わせた基本システムを開発・実験する。具体的には、デジタル本

文と自動語彙索引システムを組み合わせた、索引作成一括処理プログラムを作成し、索引タグ付け作業を進める。また、デジタル本文、画像との連携システムを試行し、役者評判記総合情報書庫構築のための研究支援システムに作り上げる。システムの運用により、第三期『歌舞伎評判記集成』の索引を作成すると共に、第一期・第二期の統合を行う。

4. 研究成果

(1)共同研究による、『歌舞伎評判記集成』第三期デジタル本文作成・解題作成のための凡例の標準化

初めての試みである、役者評判記デジタル本文作成のために改訂を重ね、第四期以降の翻字作成にも役立つ詳細な凡例他を策定し、完成させた。

- ・校訂本文作成凡例
- ・位付一覧表
- ・外字一覧表
- ・広告一覧
- ・役者紋・挿絵他画像蓄積の標準化
- ・解題凡例
- ・解題書式フォーマット
- ・組版作業凡例

(2)『歌舞伎評判記集成』第三期における漢字処理・文字処理の標準化

第一期・第二期の特徴であった厳密な漢字処理・文字処理を継承しながら、デジタル本文作成という翻字方法や、時代の変化に沿った第三期独自の判断も加えて、新たな漢字処理・文字処理方針を策定した。これも、第四期以降に引き継げるものと自負している。

- ・異体字処理原則
- ・異体字処理付表

(3)役者評判記総合情報書庫全文閲覧・索引(人名・外題・専門語彙)構築システムの開発・運用

システムの開発・実験を経て、運用に至っている。索引タグ付けも継続して実施し、全文検索システムを複合させた、効率的検索システムに成長しつつある。この作業は、『歌舞伎評判記集成』第三期出版と同時に確定するデジタル本文を使った総合検索システムとして完成できる。

(4)『歌舞伎評判記集成』第二期デジタル本文の完成と(3)システムへの搭載

第三期デジタル本文確定のために最も参考となる第二期本文のデジタル化を達成し、(3)システムへ搭載した。これにより、第三期の索引はより効率的に正確に構築することができる。

(5)『歌舞伎評判記集成』第三期と(3)システム連携のためのセキュリティシステムの構築

冊子体の出版物である『歌舞伎評判記集

成』の有用性を保持するため、(3)システムの運用方法について、＜索引情報の一般公開、翻字本文の一部表示＞方式のセキュリティシステムを構築した。

(6)役者評判記の全国的調査による原本画像と書誌情報の集成

継続的に行ってきた役者評判記所蔵調査により、主な所蔵機関の書誌調査を終え、新出資料を含む原本画像の蓄積を可能な限り進めることができた。これは、正確な校訂本文の作成には欠かせない基礎作業であり、第四期以降の翻字作成にも必須のものである。

(1)～(6)の成果に基づき、安永～享和期(1773-1804 年)の役者評判記デジタル本文をほぼ完成し、出版に向けた準備を開始している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 20 件)

①水田かや乃、「近松時代物の代表作『国性爺合戦』の役者絵」展 報告、近松研究所紀要、査読有、26 号、2016、15-25
<http://www.sonoda-u.ac.jp/chikamatsu/index.html> (2016 年度中に公開予定)

②Noriyoshi Nagai, Fuminori Kimura, Akira Maeda, and Ryo Akama, Personal Name Extraction from Japanese Historical Documents Using Machine Learning、Culture and Computing、査読有、vol.2015、2015、207-208

http://ieeexplore.ieee.org/xpl/login.jsp?reload=true&tp=&arnumber=7433262&url=http%3A%2F%2Fieeexplore.ieee.org%2Fxppls%2Fabs_all.jsp%3Farnumber%3D7433262

③佐藤知乃、役者評判記の改板—『役者時習講』書誌補遺一、演劇研究会会報、査読有、41 号、2015、20-30

④永井規善、前田亮、木村文規、赤間亮、役者評判記からの人物抽出手法の提案、じんもんこん 2014 論文集、査読有、3 号、2014、145-150

https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=107400&item_no=1&page_id=13&block_id=8

⑤水田かや乃、蒲団を着せる平右衛門—役者評判記における「間」—、芸術文化雑誌 紫明、査読無、34 号、2014、25-29

⑥赤間亮、デジタル・ヒューマニティーズの行方、DHjp、査読無、1 号、2014、49-55
http://e-bookguide.jp/item_peace/bs5852030008/ (勉誠出版より電子版発売)

⑦赤間亮、イメージデータベースの効用、DHjp、査読無、2 号、2014、68-77
http://e-bookguide.jp/item_peace/bs5852030110/ (勉誠出版より電子版発売)

⑧齊藤千恵、倉橋正恵、近松研究所所蔵役者評判記関係資料について、近松研究所紀要、査読有、24 号、2013、103-134
<http://www.sonoda-u.ac.jp/chikamatsu/index.html> (2016 年度中に公開予定)

⑨齊藤千恵、歌舞伎劇評の歴史 近代劇評に至るまで、演劇界、査読無、70-11 号、2012、86-90

⑩齊藤千恵、「助六所縁江戸桜」考—上演史からみた「ゆかり」の意味—、近世文藝、査読有、95 号、2012、1-14
日本近世文学会より 2017 年度リポジトリ公開予定

⑪赤間亮、国文学研究とデジタルアーカイブ、都留文科大学国語国文学会会報、査読無、119 号、2011、1-12

〔学会発表〕(計 9 件)

①光延真哉、役者評判記に見る宝暦から文政までの＜老人＞(シンポジウム「劇界の新陳代謝—元禄から今日まで—」、歌舞伎学会、2015 年 12 月 13 日、学士会館(東京都千代田区))

②金子貴昭、板木による板株管理の成立前後、京都俳文学研究会、2015 年 11 月 21 日、龍谷大学大宮学舎(京都府京都市)

③永井規善、前田亮、木村文規、赤間亮、役者評判記からの人物に関する表現の自動抽出手法、知識・芸術・文化情報学研究会、2015 年 2 月 7 日、立命館大学大阪梅田キャンパス(大阪府大阪市)

④佐藤知乃、役者評判記の改板—『役者時習講』書誌補遺一、演劇研究会、2014 年 8 月 23 日、同志社大学今出川キャンパス(京都府京都市)

⑤赤間亮、演劇・芸能アーカイブの歴史と展望 演博のデジタル・アーカイブと立命館アート・リサーチセンターの展開、日本演劇学会 2013 大会シンポジウム、2013 年 10 月 12 日、相山女学園大学(愛知県名古屋)

⑥齊藤千恵、『弘化未評判 戯場年中鏡』について、演劇研究会、2013 年 7 月 27 日、同志社大学今出川キャンパス(京都府京都市)

⑦赤間亮、和本デジタル化の進捗と古典籍情報の統合・活用手法、European Association of Japanese Resource Specialists (日本資料専門家欧州協会) 2012 年次研究集会、2012 年 9 月 19 日、ベルリン国立図書館(ベルリン、ドイツ)

⑧赤間亮、竹内道敬文庫のデジタル化と国立音楽大学目録データを活用した歌舞伎 WEB 年表との連動システム、京都市立芸術大学伝統音楽研究センター共同研究会、2012 年 3 月 23 日、京都市立芸術大学(京都府京都市)

〔図書〕(計 6 件)

①倉橋正恵 他、思文閣出版、風俗絵画の文化学Ⅲ—瞬時をうつすフィロソフィー、2014、434 (109—134)

②国文学研究資料館編、倉橋正恵、図説江戸の「表現」浮世絵・文学・芸能、2014、339 (271—282)

③楊曉捷・小松和彦・荒木浩編、赤間亮、勉誠出版、デジタル・ヒューマニティーズと教育—人材育成の必要性とデジタルアーカイブのサスティナビリティ、2013、304 (189—204)

④早稲田大学演劇博物館編、赤間亮、八木書店、大学文化資源の情報発信 演博改革の 10 年 鳥越館長の時代、2013、343

⑤佐藤知乃、和泉書院、近世中期歌舞伎の諸相 (研究叢書 436)、2013、393

⑥NPO 知的資源イニシアティブ編、赤間亮、勉誠出版、アーカイブのつくりかた 構築と活用入門、2012、256

〔その他〕

役者評判記研究会ホームページ

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/archive01/theater/document/hyobanki/index-j.htm>

研究成果であるデジタル本文作成のための凡例や解題凡例、漢字処理・文字処理の標準化等を公開。

展示「近松時代物の代表作『国性爺合戦』の役者絵」(2015 年 5 月 24 日～2016 年 1 月 29 日 於：園田学園女子大学近松研究所)

『国性爺合戦』に関わり、役者評判記『役者色茶湯』複製を展示したほか、役者絵の考証には第一期～第三期を中心に幕末までの役者評判記を使用(一般公開、353 名来場)。

6. 研究組織

(1)研究代表者

水田 かや乃 (MIZUTA, Kayano)
園田学園女子大学・近松研究所・教授
研究者番号：40209755

(2)研究分担者

赤間 亮 (AKAMA, Ryo)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：70212412

池山 晃 (IKEYAMA, Akira)
大東文化大学・文学部・教授
研究者番号：40222913

神楽岡 幼子 (KAGURAOKA, Yoko)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：00277807

黒石 陽子 (KUROISHI, Yoko)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：40247268

齊藤 千恵 (SAITO, Chie)
園田学園女子大学・近松研究所・客員研究員
研究者番号：00368010

野口 隆 (NOGUCHI, Takashi)
大阪学院大学・経済学部・准教授
研究者番号：50288742

(3)連携研究者

金子 貴昭 (KANEKO, Takaaki)
立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授
研究者番号：20411150

倉橋 正恵 (KURAHASHI, Masae)
立命館大学・衣笠総合研究機構・客員研究員
研究者番号：90425017

(4)研究協力者

埋忠 美沙 (UMETADA, Misa)
日本学術振興会特別研究員 PD
研究者番号：20468846

北川 博子 (KITAGAWA, Hiroko)
あべのハルカス美術館・主任研究員
研究者番号：30425061

佐藤 かつら (SATO, Katsura)
青山学院大学・文学部・准教授
研究者番号：20410045

佐藤 知乃 (SATO, Chino)
亜細亜大学・法学部・講師
研究者番号：90422352

田草川 みずき (TAKUSAGAWA, Mizuki)
日本学術振興会特別研究員 RPD
研究者番号：10367097

寺田 詩麻 (TERADA, Shima)
早稲田大学・演劇博物館・招聘研究員
研究者番号：50329124

松葉 涼子 (MATSUBA, Ryoko)
日本学術振興会特別研究員 PD
研究者番号：90555591

光延 真哉 (MITSUNOBU, Shinya)
東京女子大学・現代教養学部・准教授
研究者番号：70586388